怪我は私達で沢山

執行部・入院患者と懇談会

炭鉱で働くものにとつては保安は寸時といえどもゆるがせにされない問題です。このことはあらゆる場所や時間に組合では主張してきましたが、労働部では災害をうけて入院治療をしている人たちと懇談会をもち、より一層の保安確保のため患者からの体験談や、入院患者の実状を知り、このなかから従来の不備な点を是正して行こうと計画、まず十二月九日午後一時から天領本院外科病棟で患者さんを囲んで懇談会をひらきました。こんどは各病院を回りつぎつぎとこれを開くことにしています。＝出席者・山下（本部労働部長）中小田（本部労働部長）山本（本所支部厚生部長）患者さん五名。

うれしい見舞

A　私が怪我してつくづく感つたことは、現場の人たちも或程度の応救処置は知つておいてもらいたいことです。

C　そうですね。重傷はていねいに扱つてもらいたいですよ。現場から車まで運ばれるのが一番辛かつた。

B　私の所はヤマではないから事故に馴れていない。係長や係員があがつてしまい、却つて患者の私がいろいろ指図するほどでしたよ。

E　その点坑内は事故でもぬたつとしている。落着いていますね。だが反面、後の処置が非常に冷淡ですよ。

淡しい化学関係

D　入院してとくに感じたことは炭鉱以外の化学関係、とくに染料や電化などは入院当日は家族の外に二名ほど会社から附添いにきてくれるし、寝ずの番をしてくれる、とても思いやりがあります。それに入院生活に必要な品物は会社からどしどしもつてきてくれる。便器までもつてきてくれますよ。会社のPRかも知れないが責任者はとても感縮しているし、課長級の人が三日も四日も続けて見舞いにくる。

A　PRかも知れないが、確かに温か味はありますね。

B　公傷の治療に必要な品物は少くとも会社負担にすべきですよ

C　支給されているのだろうけれども、どうしても間にあわんので自分で買つてしまいますね。その点化学の人たちをみればうらやましい気持がします。

E　私は手術を三回しました。妻ばかりでは人手不足なので会社に人手を頼んだが、とうとう誰もきませんでしたよ。

山下　入院生活をしていて、現場の人たちに何か注文はありませんか。

怪我すると損

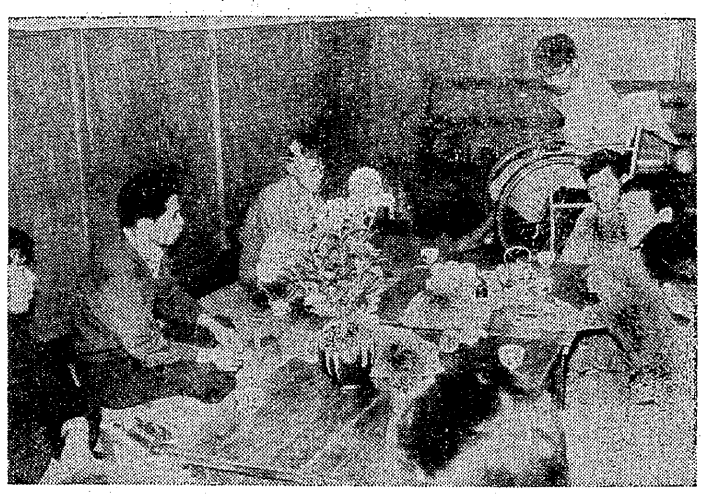
A　注文ではないが、見舞いにきてもらうのが一番うれしいですね。普通のときよりも心底から有難味がわかりました。

一同　そうです見舞いにきてもらうのが一番うれしいですね。

B　怪我してつくづく感つたことは見舞いについて考えが違つてきましたね。以前はとても事務的でした。退院してもし同僚を見舞うとしたら患者にためになるような見舞品や見舞いの時期をかんがえるようにします。

E　退院しても現場の第一線で仕事をされぬのが一番心配です。寝てからもかんがえますよ。

山下　現場でつねに感じることは私たちが保安委員として災害後の対策、処置などをやるが、自分としては怪我された人、死亡された人の気持ちになつてやつているのですが、事務的になりはしないかといつも不安に思つています。怪我をした人の立場から災害をみつめて行こうと決心しています。それでそのためこんな懇談会をもつているわけです。



執行部を囲み患者さんの発言も増す

C　坑内の仮手当所ですが、毛布をぜひ二、三枚は用意してもらいたいですね。怪我すると出血するのでとても寒いですよ。

D　私のところには二枚ありましたが同僚の服を何枚もきて毛布もまきつけたが寒かつたですね

よい作業環境を

A　保安にたいする規約があるがやはりあればビシヤツと守ることですね。

B　二度と同じ災害を繰返さないためには絶対ですよ。

C　作業環境を整備してもらわんと作業意欲がなくなり、保安もルーズになりがちです。この点とくに注意してください。

E　災害現場から救援するときはていねいにしてもらいたいです傷をうけたときより運搬されるときがとても痛い。

D　どれだけ注意しても注意しすぎることはありません。ケガしたのち、つくづく感じました。とにかく絶対にケガをしてもらわないように伝えてください。

山下　病院にたいしての要望はありませんか？

C　患者専用の運動場がぜひほしいですね。

A　そうです。マッサージより効果的だと思います。

D　とにかく長くここにいると本と風呂が楽しみです。

B　いままで午前中に入浴していましたが、こんどそれが駄目になりました。いきおい昼過ぎになると入浴者も多く、脚の屈折がされませんから困つています

C　患者の方からはどうしても苦情はいえませんですよ。何といつても体を医者に任かせているのだから……

A　小さいことですが、配膳所にソースと醤油ぐらいは備えつけてもらいたいですね。自分で購入していますが、寮などから入院している人は家族もきていないからとても不自由しています

山下　いろいろお疲れのところどうもありがとうございました。ためになるお話をうかがい、貴重な資料となりました。こんどもできるだけ、こういう会をもちたいと思つています。

映画

短い命の限りを恵まれぬ人々に捧げた乙女の記録

蟻の街のマリア

【かいせつ】

昭和二十五年からまる八年戯草隅田川の言問橋畔にある通称「蟻の街」というバタヤ部落に身を投じたカトリック信者の北原さと子さんが、終始変らず、不幸な人々に愛の灯をかかげ続けて、遂に胸を患い、本年一月二十三日昇天するまでのうら若い生涯の実録を小説風にまとめたものである。

【ものがたり】

ひどい雨のある晩、美しい花模様のかわいいお嬢さんが突然この部落を訪ねて来た。「なにかここで私にすることない？私なんでもやるわ」……好奇にあふれた、汚ないバタヤたちの目が不審気に光る。

彼女の名は北原さと子（千乙藤子）――農学博士を父（齊藤達雄）に持ち、やさし母（夏川静江）もいる健康な家庭のお嬢さんで、マリアという洗礼名を持つた熱心なカトリック信者だが、ふとしたことでこの不幸な人々の集団を知つて救いの手を差しのべようとやつて来たのだつた。

この人たちの結果をより纏め、指導している先生（南原）はこうした組織の中に突然飛び込んで来た風変りな娘のさと子を利用して盛大なクリスマスをこの街で催した。新聞に「蟻の街のマリア」と書き立てられたさと子はすつかり仲良しになつたこの街の子供たちに勉強を教えるようになつた。

ちようど夏休みになつた頃、さと子は海へも山へも行けぬこの子たちを箱根に連れて行つてやりたいと思い立ち、その資金集めに遂にバタヤの車の棍棒を握つた。初めのうちはお嬢さんの気まぐれ仕事としか思つていなかつた先生たちも、この真剣な姿を見てからというものは、心から溶け合つて行つた。

この箱根行で子供たちもすつかり明るくなり、団結の仕事の楽しさも覚え街には生気がよみがえつた。

さと子とゼノ神父、それを支持する住民たちの協力で蟻の街に粗末だが立派な教会が建てられた。

さと子のことを新聞で知つたというモンテルパの死刑囚からの涙の手紙がさと子に一層の自信を与えた。

しかし過労は健康そうにふくれた乙女の胸を知らぬ間にムシバんで行つた。

（十七日より大天地で上映）

雑記帳

「おかみさん」か「奥さん」か？

北村　瞳

今年の秋ごろから「週刊わかもの」という週刊雑誌が発行されている。いま、九号が出ているが、その週刊誌は、週刊誌の大流行のなかでもひときわ特異である。ねだんは八回で送料とも百円。三川支部には分局まで出来て、百人くらい読んでいる。

その週刊わかものの主幹ぬやま・ひろし氏がこないだやつてきた支部の二階で懇談会をもつたのであるが、たいへんたのしい一と刻をすごしたと思つている。裕次郎のことやら、恋愛のことや中央合唱団のことや、労等感をどこで拭つきるかなど、実にもり沢山な話題だつた。中国の試験田で米が反当四百石とれたという話まで出て労働組合と農民の同盟がどんな心のくばり方のなかから育つたかなども話題になつた。

ぬやま・ひろし氏は、「若者よからだをきたえておけ、美しい心がたくましいからだにからくも、支えられる日がくる…」という、みんなが知つている「わかものよ」の作者でもある。もともと詩人で、五十五才になるそうだが、若い。四十ずくらいにみえる。

「どうして若いのか」という問いに答えて、日常の生活が、十四、五才くらいからの若い青年男女とつきあい、彼（彼女）たちは、いろんな判断ではもうりつぱな一人前の大人だという態度で接しているんだからといい、また、戦争中は獄中にいて、すくなくともそのおかげで喰う心配や家の心配もせずにすんだし、酒好きが酒をのまずにいたのが肝臓を痛めずそのせいもあると、率直な態度がかえつて明るい笑いをさそつた。

その懇談会に出席していた教宣部員のTさんがぬやま氏の言葉のなかにあつた「長屋のおかみさん」というのに疑問をはさんで、「自分たちは〝奥さん〟という言葉を使つているので、いま、おかみさんというのは何か軽蔑しているようでひつかかる」という意味のことをいつた。

「それは言葉の概念が時代とともに移つていくことをしめしています。ぼくらの年輩では、みんなおかみさんといつて親しみを表わしていた。奥さんというのは、ブルジョアの、いわゆるザアます族に使つていて当時は軽蔑心をふくんでいた」という意味のことをぬやま氏は答えられた。ぬやま氏は、気を配つてそれ以後、奥さんという言葉で主婦会のこと、社宅での生活のことを私らと話していつたが、T教宣部員の提出した問題―「おかみさんか、奥さんか？」は私なりに面白いと思えるのだつた

組合員のあいだ同志では、「おれんとこのカカア」であり「おまえのカアちやん」でその他の呼び方をほとんど耳にしない。改まつて面と「おまえのカアちやん」なるひとに向えば「奥さん」と敬称する次第であるが、この辺、「おかみさん」という言葉を含めての微妙な言葉づかいの変化を主婦会員のみなさんはどう思われるだろうか。らちも表も見通しの家で、「奥さん」でもあるまい。なにかぴつたりと来て、よそ行きも普段もない表現はないものか―と私は働くものの文学―小説を書こうと勉強している立場からも思うのである。

（筆者は三川支部）

なるほど本棚

黒人〝迫害と忍従を越えて

（14）

「白人はイエス、キリストをもつて来た。そして崇め祈れと教えてくれた。ところが崇め祈つているそのすきに、おいらの土地は盗みとられた」これはアフリカ、ケニヤの黒人の歌である。キリストの愛の教えがどれほど崇高なものであつても、この歌の真実を覆すことはできません。

アフリカ黒人の極度の貧困は世界の人が認めています。金、ダイヤモンド、コバルト、マンガン、クロームその他の鉱産物からココアのような飲料にいたるまで、また原子力時代になくてはならぬウランなど世界的に重要な資源が極めて豊富に埋蔵されています。その豊かな資源と住民の甚だしい貧困。この矛盾に誰もが小首をかしげるに違いありません。しかもその土地は彼等の彼等自身の土地であるはずなのに。

イギリスは紳士の国、フランスは芸術の国と一般の常識でいわれています。でもこの国の人たちがアフリカで振りまわした白人の特権の実態を考えると、〝何が文明か〟と憤らずにはおられません。

いまなお南アフリカ連邦では、人種差別を政府が禁止するどころかかえつて憲法、法律で人種差別を公認し、その完全実施を命じているそうです。最近では、その政策がさらに強化されたことを、この本は強く指摘しています。その国の経済政策は、国民の民心や人間性をも奪つて恥ぬらしい。

ビー玉を土民王に与えて膨大な土地をだましとつた古い過去から「政治的結合」とか「文化的な同化」とかとの美名のもとに、間接統治や分割支配に従いて絶ての不合理が正当化されているのです。

暗黒大陸とは私たちの隅きなれた言葉ですけど、暗黒という意味を蛇や人喰人種にあてるのは決して妥当ではありません。白人の黒人にたいする人種的偏見こそ、いまだにアフリカが暗黒大陸として世界に通用する理由ではないでしようか。

しかし人種差別はアフリカばかりではない。世界の方々で嘆きをきかしています。アメリカの人口の約一割は黒人です。アフリカほどには、黒人は搾取の対象にはなつていなくても、民主々義が表カンバンであるその国において、彼等がいかに非民主的に取扱われているかは周知のとおりです。それにつけても思い出すのは、ドイツに落ちなかつた原子爆弾が日本に二発も落されたのは、日本人は有色人種であるからとドイツより日本に落すことによつて罪の意識から救われたからだと理解したドイツの一青年のことです。歴史的にこのような侮辱を受けたアメリカに政策を支配されている日本の現状を何と解釈したらいいのでしよう

三人の記者によつて〝アフリカの黒人〟〝アメリカの黒人〟〝黒人の歴史〟とわけられているこの本は、もはや現代において人種的優越など許されない、地球上の総ての人が、人間的に対等な位置で手をつなぐべきだということをおしえています。ひろく組合員のみなさんにすすめたい本です。

朝日新聞社編　一八〇頁　二四〇円

◈【この稿をよせて下さつた方は所属氏名を編集部まで知らせて下さい】